

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	古浦敏生先生の思い出
Author(s)	浮田, 三郎
Citation	プロピレア , 23 : 1 - 2
Issue Date	2017-08-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00044331
Right	Copyright (c) 2017 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	



追悼 古浦敏生先生

古浦敏生先生の思い出

浮田 三郎

広島大学名誉教授

日本ギリシア語ギリシア文学会長

古浦敏生先生が逝かれました。訃報を受けたのは、2017年5月2日のことでした。享年78歳とのことでした。ここに先生の思い出を記して偲びたいと思います。

それは、遥かに半世紀に及ぶ思い出です。私は、入学式の後、研究室での自己紹介の場で初めてお会いしました。三人の先生方の中で、一番若い助手の先生が古浦敏生先生でした。先生は、真面目の上にひと文字つくほどの研究熱心な人柄で、学部や大学院の授業にもよく顔を出され、静かにノートを取られたりしておられました。

先生の初期の研究には「幼児語の発達」に関するものもあり印象的でしたが、本来は主にイタリア語に関する研究で、多くのイタリア語の冠詞の研究やダンテの神曲に関する研究を發表されています。

日本ギリシア語ギリシア文学会（発足当時は研究会）では、発足当時から中心的人物で会を長年支えてくださいました。初代会長の関本至先生が退かれ、先生に会長をお願いしたときは、自分の専門性と西日本言語学会の会長をされていたこともあり、固辞されましたが、常に会員の研究活動を支えてくださいました。

ギリシア語、ギリシア文学との関わり合いでは、勿論、「西洋古典」は専門の内でしたが、現代ギリシア語に関してもいくつかの研究発表をされています。実は、私が現代ギリシア語を研究したいと言って関本至先生にお願いすると、現代ギリシア語の読書会を開いてくださいましたが、そのときにも古浦先生は付き合ってください、本来は私のための演習でしたが、代わりにやってくさったこ

ともありました。『現代ギリシア短編小説選集』（関本至訳、溪水社、1980）の中の多くは、その折の演習資料でした。

私がギリシア留学から帰国し、言語学研究室の助手として採用された3年間は、直属の上司として優しく指導してくださいました。それ以降も、文学部の現代ギリシア語の授業の開設でもお世話になったり、ご指導ご鞭撻を頂いていました。

学生との付き合いも良く、研究の場だけではなくソフトボールや飲み会などにもよくお顔を出してくださいました。

定期的に行っていた言語専攻対仏文専攻あるいは言語専攻対独文専攻のソフトボールでは、あの長身を活かしてファーストを守られていました。お酒は駄目な方で、グラス半分のビールで真っ赤な顔をされていましたが、歌は、得意の民謡を披露してくださっていました。

お酒の場でとえば、関本至先生を慕う教え子の会のような先生の誕生日の前後に先生を囲む飲み会があり、皆さんそれぞれの研究活動などについておおいに話の花を咲かせておられました。これぞ正に「シンポジオン」でした。それは、「初夏の陣」と称して、ずーと続いていたのですが、そういえば、去年今年と開かれなかったのです。

先生は、カープファンとしても、熱狂的とは思わせないような顔で、多くの節目の記念試合を観覧されたり、記念のグッズの所有も自慢されておられました。近年中国新聞に掲載された時事川柳に「球団も男気みせた6億円」というのがあるそうです。今年は、「二年連続セリーグ優勝」そして「日本一」を雲の上から見ておられることでしょうか。さあ、何と詠まれるのでしょうか。